



日頃よりご支援・ご声援を賜り心より感謝申し上げます。この学校評価だよりでは、保護者・児童・職員アンケート結果（満足度指標）だけでなく、成果指標や努力指標を取り入れ、より客観性を持たせ、特に達成度判断基準を設けることで、本校の取組が目標に達しているかどうかも明確にしました。学校評価の結果をもとに、今後もよりよい学校生活の充実に向けて、保護者・地域の皆様と共に取り組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

令和7年10月7日 能登町立鵜川小学校長 富水 知子

## 令和7年度

## 第1回 学校評価（7月 中間評価）

## 能登町立鵜川小学校

重点目標	自己評価					備考
	評価項目	具体的な取組	評価指標	評価：達成度判断基準	取組の状況・結果	
確かに学力	総合的な学力の向上	・学力調査の結果を分析して定着していない内容を授業や朝学習で補強する。 ・授業での学んだ知識や言語力を活用して思考、判断し表現する活動場面の設定。 ・計算、漢字コンテストの取組	【成果指標】各種・学力調査の結果が県及び国の平均を上回っている。	全国学力学習状況調査・県基礎学力調査の結果が県平均・町学力調査の結果が国や県平均を上回っている教科が全体の  A: 60%以上 B: 50%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	3~6年の学力調査は合わせて12教科あり、全国や県の平均を上回った教科は6教科だった。記述式の問題で、適切に表現したり、条件に合わせて書いたりする力に課題がある。また、基礎基本の問題を確実にできることが必要である。帯タイムや家庭学習、漢字計算コンテスト等を活用して定着させていく。	B
	学力向上プランの推進	・つまずきを想定し手立てを考える。 ・目的のある交流の場を設定する。 ・課題と整合したまとめを書く。	【満足度指標】授業で自分で学び方を選び、目的のある交流をすることで、児童が「わかった」「できた」と感じている。	職員アンケート「授業では1時間完結授業」に努めている。」という項目で肯定的な回答をした職員の割合が  A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	今年度は、児童のつまずきを想定し、手立てを考えて、全員が自分の考えをもてるように取り組んでいる。また、目的のある交流によって1時間の最後にはみんなが分かったを感じができる授業を目指している。中間は85.7%であったが、継続して取り組んでいく。	B
豊かな心	明るい挨拶があふれる学校づくり	・縦割り班での「あいさつ運動」を継続し、よい挨拶をしている児童を全体に紹介することで、挨拶の習慣の定着を図る。	【満足度指標】児童がすんなり挨拶する習慣が身に付いている。	児童アンケートで「いつも大きな声で気持ちのよいあいさつをしている。」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が  A: 児童の90%以上 B: 児童の80%以上 C: 児童の70%以上 D: 児童の70%未満	昨年度の最終結果の95.3%とポイントはほぼ変わらず92.1%となった。昨年度2学期から縦割り班でのあいさつ運動の回数を減らしたが、教室や職員室でのあいさつに対する職員の声掛け、代表委員会による新しい取組等が日々のあいさつに対するプラスの評価につながったと思える。	A
	良好な人間関係の構築	・勉強や行事等で、各自に目標を持たせ、粘り強く取り組むようにする。 ・相手の気持ちを考えた思いやりの心を育む取組をしていく。	【満足度指標】児童が学校生活の中で友達と仲良く勉強したり遊んだりしている。	児童アンケートで「友達と一緒に遊んだり、活動したりするのは楽しい。」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が  A: 児童の90%以上 B: 児童の80%以上 C: 児童の70%以上 D: 児童の60%以上	掃除、運動会、うかわっ子ふれあいタイム等縦割り班で行う活動が多く、異学年を通して仲良く遊ぶ姿がある。また、同学年や他学年の児童に向けて「よいとこ見つけ」も行った。 今後も縦割り活動やいいとこ見つけを通して児童同士の良好な関係作りを進めしていく。	A
健やかな体	体力の向上	・年間を通してスポーチャレいしかしわの種目に取り組む。 ・体育の時間に、児童の体力が高まるよう、運動意欲と技能の向上、運動時間の確保に努める。 ・マラソン大会に向けて、持久力をつける取組を計画的に取り入れていく。	【成果指標】体力テストのシャトルランで34回以上走っている児童（3~6年）の割合を90パーセント以上をめざす。	体力テストの「シャトルラン」で34回以上走っている児童（3~6年）の割合が  A: 90%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	6月に実施したうかわっ子オリンピックでは、23人中16人がシャトルラン34回を達成していた。（4人未実施）達成判断基準をシャトルラン34回にした理由は、現6年生男子の昨年度の平均を超えてほしいからである。6年生男子は、県の平均指数を下回っている項目が多く、基本的な体力の向上を目指している。今後も、一校一プランに記載した通り、職員も手間を惜しまず児童を休み時間に遊びに誘っていく。そして、体を日常的に動かしていくきっかけをつくっていきたい。また、1学期に取り組めていなかったスポーツへの継続的な取組を呼びかけていきたい。	B
	健康教育の推進	・毎月「元気ハッピー貯金」を行い、規則正しい生活習慣を身につけさせる。 ・早寝・早起きの大切さ、メディアの使用時間等について指導する。 ・朝ごはんの大切さや食事のマナー等の食育を行う。	【満足度指標】学校での指導や家庭での働きかけの結果、子ども達の生活習慣が向上している。	保護者アンケートの「子どもは、ゲームやインターネットの約束を守っている」という項目に肯定的に回答した保護者が  A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	昨年度最終では肯定的な評価が73.8%だったが、ほぼ変わらずの73%だった。児童の生活状況や実態を踏まえた学級や個人での保健指導を行い、生活習慣の定着を図っていきたい。また、非行被害防止講座を踏まえて、元気ハッピー貯金や家庭でのメディアアルールの作成を2学期以降も継続して行い、家庭との連携を図っていく。	C
安全・安心な学校	安心できる学校	・児童理解の会での共通理解や共通指導を徹底し、児童のよりよい人間関係の構築に努める。 ・学習面において、個に応じた指導を行う。 ・子どもの自己肯定感を高める取組をしていく。	【満足度指標】自分のよいところやがんばっているところに気付き、自己肯定感が高まっている。	児童アンケートで「先生は、自分のよいところやがんばっているところをほめてくれる。」をいう項目に肯定的に回答した児童が  A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	アンケートでは「あてはまる」が76.3%、「だいたいあてはまる」が21.1%と、肯定的評価が高かった。引き続き、授業やその他の活動における頑張りやできていること認め、児童に伝えていくとともに、「よいとこ見つけ」の取組も継続して行う。また、いじめアンケート等の結果だけでなく、生徒指導に関する情報をスピーディに全体共有し、児童理解を深めるとともに、効果的な指導や支援を検討し、共通実践を図っていく。	A
	安全な学校	・避難訓練を通して非常災害発生時の避難行動の仕方を身につけさせる。 ・保護者が連絡、相談したことに対して、誠意を持って対応している。 ・「報告・連絡・相談」の徹底を図り、迅速に対応していく。	【満足度指標】保護者が学校の情報について、情報を迅速に発信している。	保護者アンケートで「学校は、緊急メールやお知らせなどで、迅速に情報を発信している。」に対し、肯定的な回答をした保護者の割合が、  A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	保護者アンケートでの肯定的評価が100%であった。今年度は、保護者連絡サービスアプリ「テトル」の導入があり、1学期末までに保護者の登録を完了した。これまで、不審者情報などの安全情報や学校行事に関する情報を、テトルからのおたより発信を続けている。緊急時の連絡もテトルを通して行う予定でテストメールでの確認をした。今後も様々な情報を確実に保護者に伝えるようにする。	A
家庭地域との連携	地域の教育力の活用	・地域人材を活用し、地域の特色を生かした授業実践を行なう。	【満足度指標】生活科、総合的な学習、道徳などの授業で、地域の人材を活用する授業を行なっている。	職員アンケート「地域の素材をもとに学習活動を行ったり、地域人材を活用したりして「ふるさと教育」を積極的に展開している。」に対し、肯定的な回答をした職員の割合が、  A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	職員アンケートで肯定的な回答は85.7%であった。2年生は地域探検で日の出大敷を見学、3・4年生はミニ水族館を作るための磯観察、4年生はヒラメの飼育と放流など、地域の海と人材を活用して学習活動を行なった。また、社会でも地域の祭りについてゲストティーチャーを招いて教えていただいた。5・6年生も祭りについて調べており、今後は地域の人材にインタビューするなど工夫していく予定である。	B
	学校情報の積極的な公開と家庭・地域への適切な説明	・学校だよりや学級だよりの発行、ホームページの充実により、保護者が学校経営方針や教育内容を理解できるよう努める。	【満足度指標】保護者が学校の教育方針や児童の様子が伝わっていると感じている。	保護者アンケートで「学校は、学校だより、ホームページなどを通じて、学校での教育活動の様子を積極的に伝えている。」に対し、肯定的な回答をした保護者の割合が、  A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	保護者アンケートでは100%の肯定的評価をいただいた。月一回の学校便り発行や週3回以上のホームページ更新を行なってきた。また、学年だよりにおいても、月一回以上は発行していた。教職員アンケートの関連する項目においても肯定的な評価が100%であった。今後もタイムリーな情報発信を継続していく。	A
組織力向上と働き方改革	組織力向上	・校内研修や授業研究などを通して授業力の向上を図っている。 ・校務分掌や得意分野において意欲的に取り組んでいる。	【満足度指標】校務分掌において意欲的に取り組んでいる。	職員アンケート「校務分掌や得意分野において意欲的に取り組んでいる。」に対し、肯定的な回答をした職員の割合が、  A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	アンケート結果では、87.5%であった。意欲的という目標に対する評価が難しいが、分掌担当者から積極的に声がかかることが多い、後手に回っている印象は受けない。また、提案に対する意見も出しており、よりよくしようという思いがある。担当者が負担に感じている面があれば、共有して解決へと向かいたい。今後もそれぞれの職員の個性が生きるような声掛けを行い、児童の心身の安全、学力の向上のために、組織的に動いていく。	B
	働き方改革の推進	・校務分掌の平準化と担当の明確化を図り、意識改革を推進する。 ・会議を事前に設定された時刻に終了するよう努める。	【成果指標】教職員が働き方改革を意識して効率的に業務を行い、時間外勤務時間を削減している。	月の平均退勤時刻が19時以前の職員の割合が、  A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	月の平均退勤時刻19時以前を達成した職員の割合において、4~6月の平均値が59.3%であった。少人数学校における校務分掌の重複した業務が原因と考えられる。 学校の取組の精選、業務の平準化、退勤時刻を意識した働き方を進めていく必要がある。	D

